秩父夜祭

「秩父夜祭」は、毎年 12 月 3 日に開催される、埼玉県秩父市の神社「秩父神社」の例大祭である。
2016 年には「山・鉾・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。
祭りの日になると市内を曳行される秩父祭屋台もまた、国指定重要有形民俗文化財に登録されるなど、市の重要な観光資源の 1 つとなっている、伝統的な祭りである。

ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」として認定された秩父夜祭
きらびやかな屋台が市内を曳行し、祭りの最後には花火が打ちあがる

秩父祭屋台

夜祭を担う 6 町会がそれぞれ所有している

国指定有形民俗文化財

秩父屋台囃子

秩父祭屋台が市内を曳行する間屋台に乗った囃し方によって演奏される

長い伝統によって地域に根差した祭りであるはずが、自ら祭りを担おうという住民は減ってきている。
祭りを担っている住民とそうでない住民との間に、祭りに対する意識の乖離が生じ始めている。
また、秩父夜祭を担う 6 つの町会の横のつながりが弱まり、独立性を持ち始めている。
秩父屋台囃子などでリズムがバラバラになっていくことを秩父地方の方言で “ぐれる” と言う。
現在の秩父夜祭はまさに ”ぐれて” いる状態なのである。

〈付舞台〉

夜祭特有の要素で、
屋台の床を拡張するように取り付けられる舞台のこと。
この舞台で屋台歌舞伎という伝統芸能が披露される。

各町会の所定の場所に屋台が停車

住民や大工らが 1，2 時間で組み立てる

屋台から張り出した舞台の上で歌舞伎が披露される

〈まっこ〉

秩父地方の古い言葉で炉縁のこと。
半世紀ほど前の秩父屋台囃子は
特定の家系だけが受け継ぐものであり、
練習は毎晩のように家の中の
まっこを叩いて行われていた。

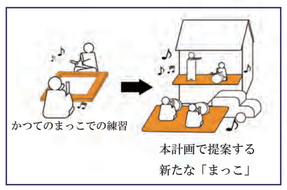
まっこ（炉縁）

写真：秩父観光協会 HP，清水武甲「秩父祭」

計画概要

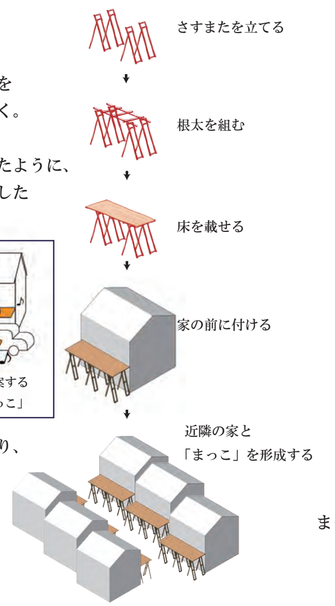
〈付舞台でつくるまっこ〉

付舞台と同じ手順で練習場所を
組み立て、家の前に置いていく。
かつて囲炉裏を囲って
秩父屋台囃子の練習が行われたように、
道路を挟んでスケールアップした
まっこを秩父に創出する。



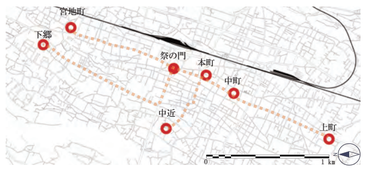
家の前を介して道沿いに広がり、
やがて秩父全体が
まっこによってまとめられる

【まっこのつくりかた】



〈計画敷地〉

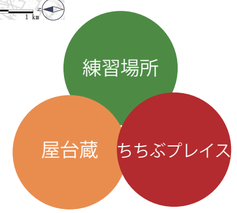
現在、秩父屋台囃子などの練習は「会所」と呼ばれる公民館で行われている。
本計画では、既存のものにさらに機能を加えた新たな会所を
6 町会それぞれに新築する。敷地には既存屋台蔵がある場所を選定した。
また、まっこによる伝統継承一体化のまちづくりの象徴として、
「祭の門」と称したビルを計画した。



既存屋台蔵（中近）

【新たな会所の機能構成】

各会所でまっこの中心になる　練習場所
敷地選定のプロセスより　屋台蔵
秩父の特産品等を扱う　ちちぶプレイス
以上の 3 機能を備えた新たな会所を計画する



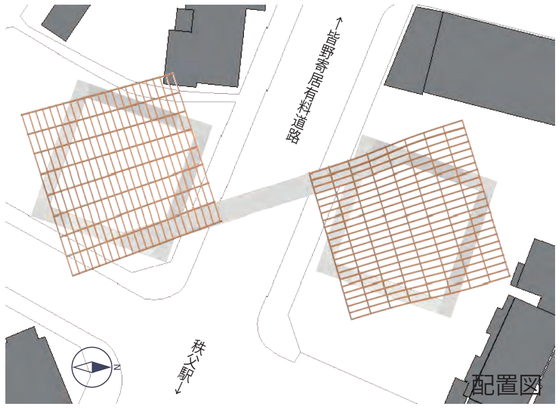
まっこは道路沿いに伝播していき、やがて会所同士をつなぐ。
まっこで一つにまとまった秩父は、二度とまとまりを失わない、
ぐれないちちぶ へと形を変え、後世へと受け継がれていく…

祭の門

— 祭のまちへの到来を歓迎する ぐれないちちぶの玄関口 —

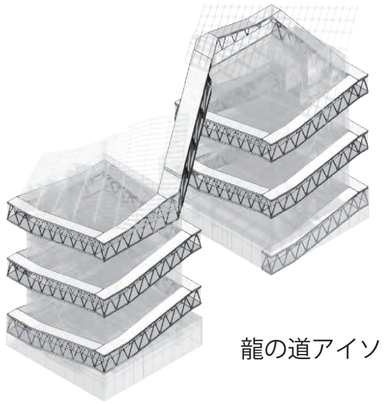
〈敷地〉

秩父への観光客は
秩父駅 または
皆野寄居有料道路 から
秩父に訪れる。
どちらから秩父に入っても通る
秩父駅前通りの一角に計画する。



〈龍の道〉

2 棟のビルを包むガラス通路。
ビル内での活動を見ながら、
秩父市の街並みを見下ろしながら
屋上へと上っていく。



龍の道アイソメ図

最上部の展望通路は、
秩父夜祭の 2 祭神
「妙見菩薩」と「龍神」をまつる
「秩父神社」と「武甲山」を
結んだ直線上に渡る。

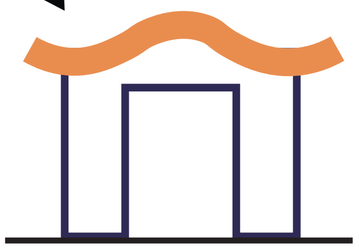
ここを通る人は、その眺めに
秩父夜祭の起源を感じ取る。

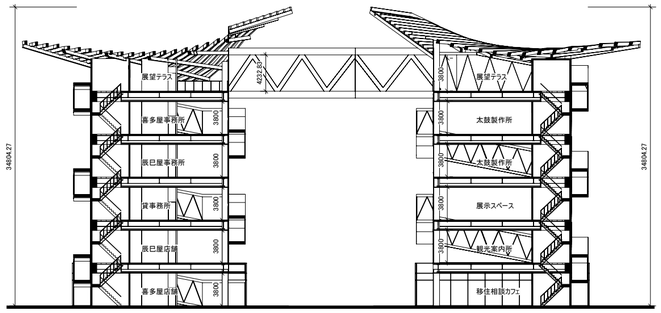
秩父神社と武甲山を結ぶ
直線（　）の上に祭の門が位置し、
展望通路部分はこの直線に従う。

〈唐破風〉

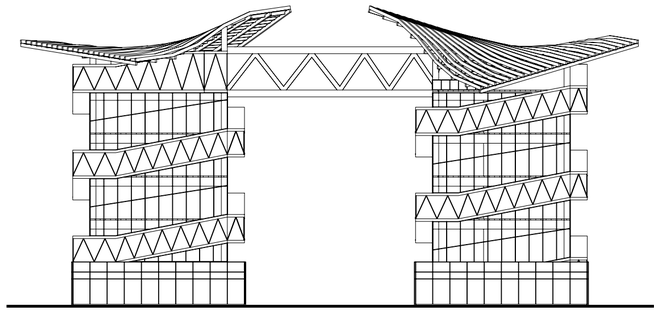
屋上を覆う湾曲した屋根は、
秩父祭屋台を覆う
大きな唐破風の
シルエットをあらわし、
ビルそのものが
大きな屋台の様相を成す。

秩父祭屋台の唐破風
（秩父神社 HP より）

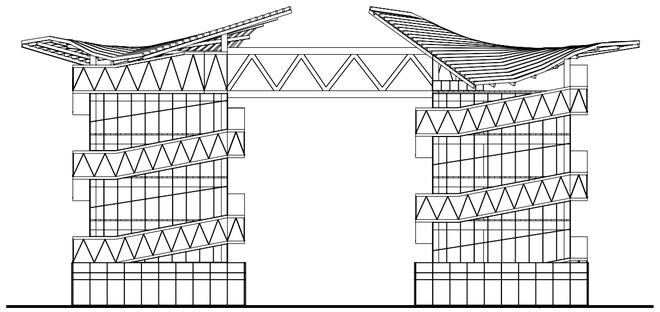




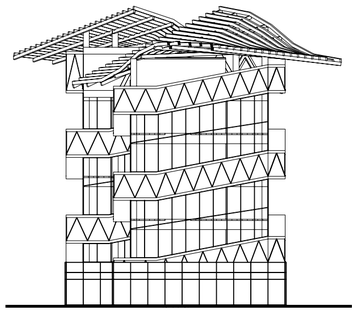
断面図 1/500



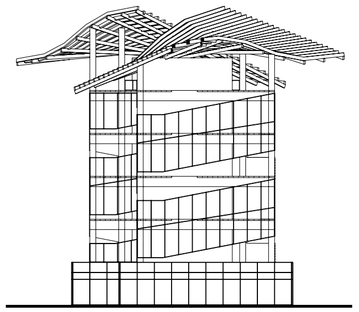
西側立面図 1/500



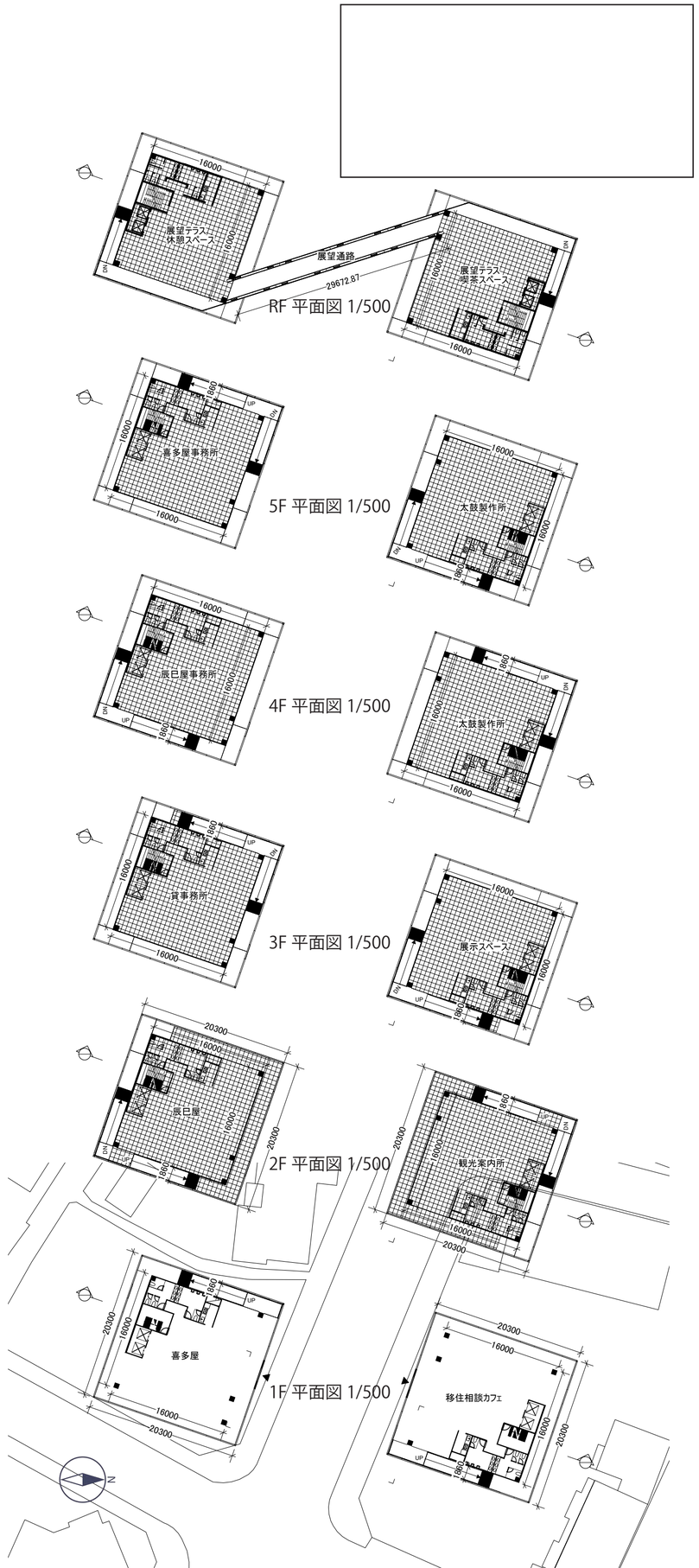
東側立面図 1/500



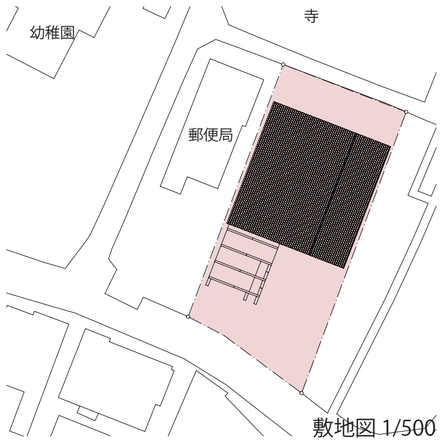
北側立面図 1/600



南側立面図 1/500



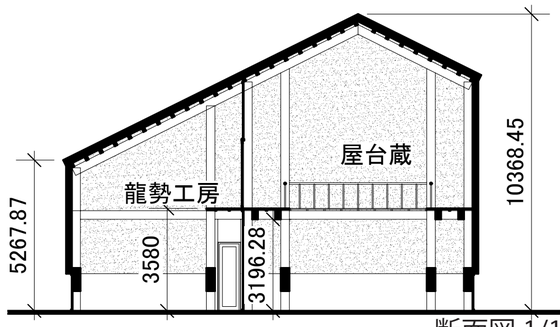
中近
― 秩父の大工が集う工房 ―



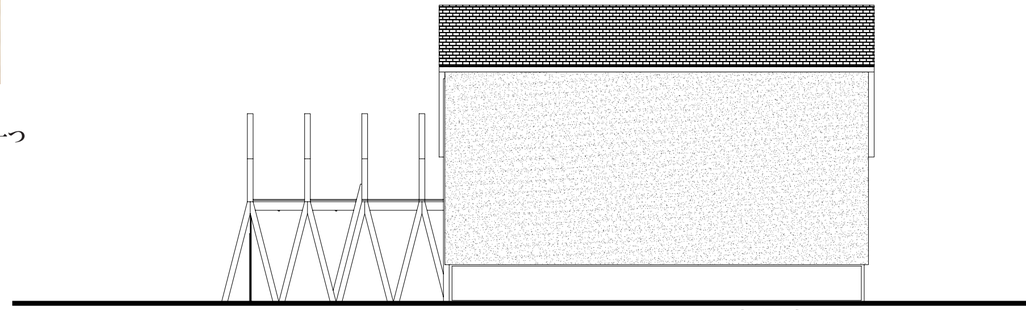
敷地図 1/500

長さ 18m にもなる龍勢を加工するため
龍勢工房は細長い平面
建物裏手では龍勢の材料である竹を栽培

職人技を求め秩父の大工が集結
付舞台組立のリーダー養成も目的の一つ



断面図 1/150



東側立面図 1/150

〈龍勢〉

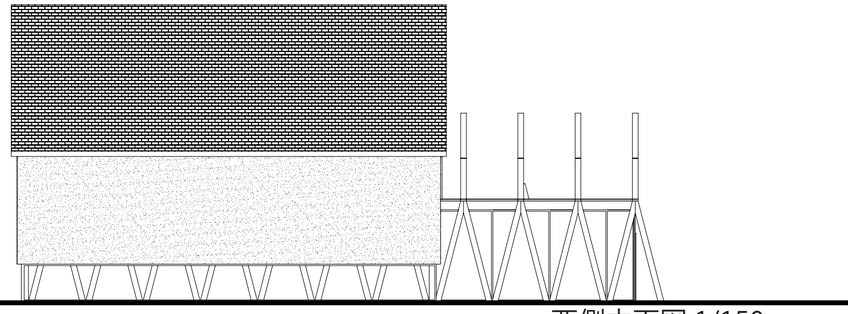
秩父市で毎秋催される「龍勢祭り」で
打ち上げられるロケット花火のようなもの。
その制作には熟練の技が必要とされ、
大工の棟梁が携わることもある。
「秩父吉田の龍勢」として
国重要無形民俗文化財にも登録されている。

打ち上げに際しては秩父屋台囃子が演奏され、
見物する人々の心を最高潮まで昂らせる。

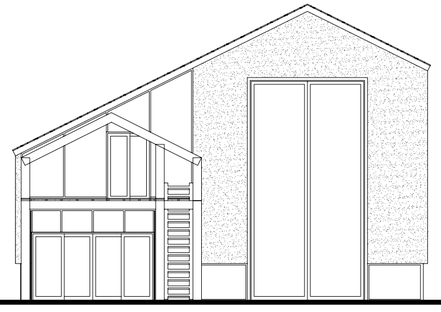
龍勢祭りと秩父夜祭をつなぎ、
より祭りのまちとしてのまとまりを強化する。

写真：吉田龍勢保存会 HP

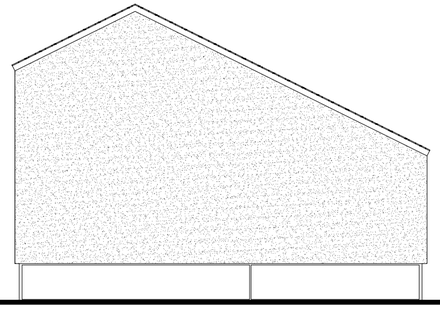
大きくせり出した練習舞台がまっこをまとめ上げる
舞台の意匠は隣の幼稚園に通う子どもたちも親しみやすい雰囲気に



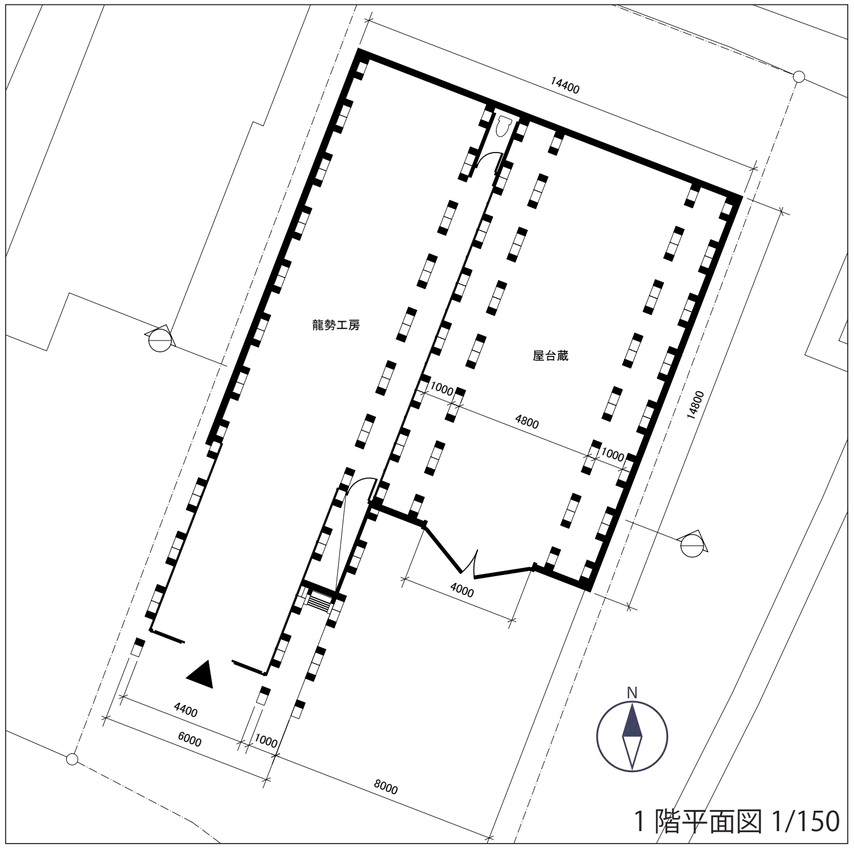
西側立面図 1/150



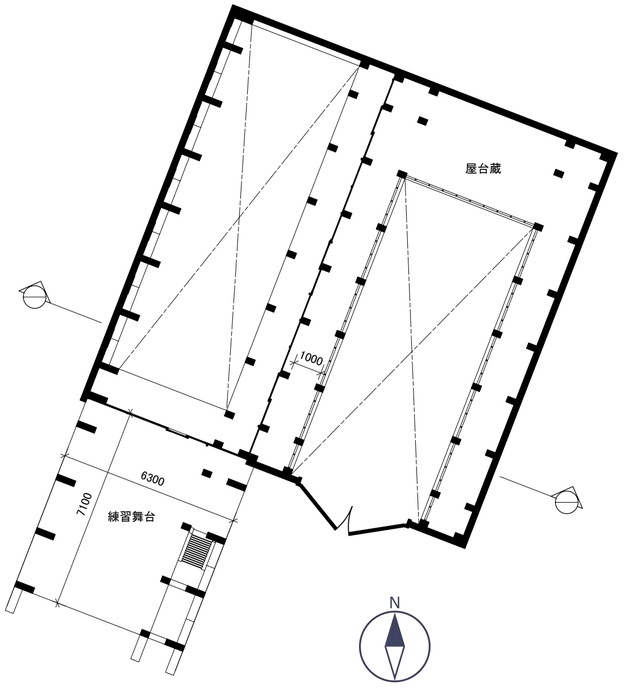
南側立面図 1/150



北側立面図 1/150



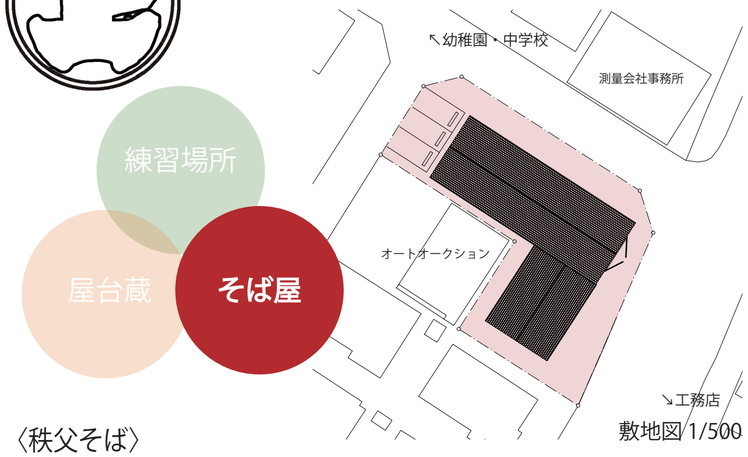
1 階平面図 1/150



2 階平面図 1/150

上町

― 地域の人々が集うそば屋ー



敷地図 1/500

練習のときだけ外に出す練習舞台
付舞台の部品からなる

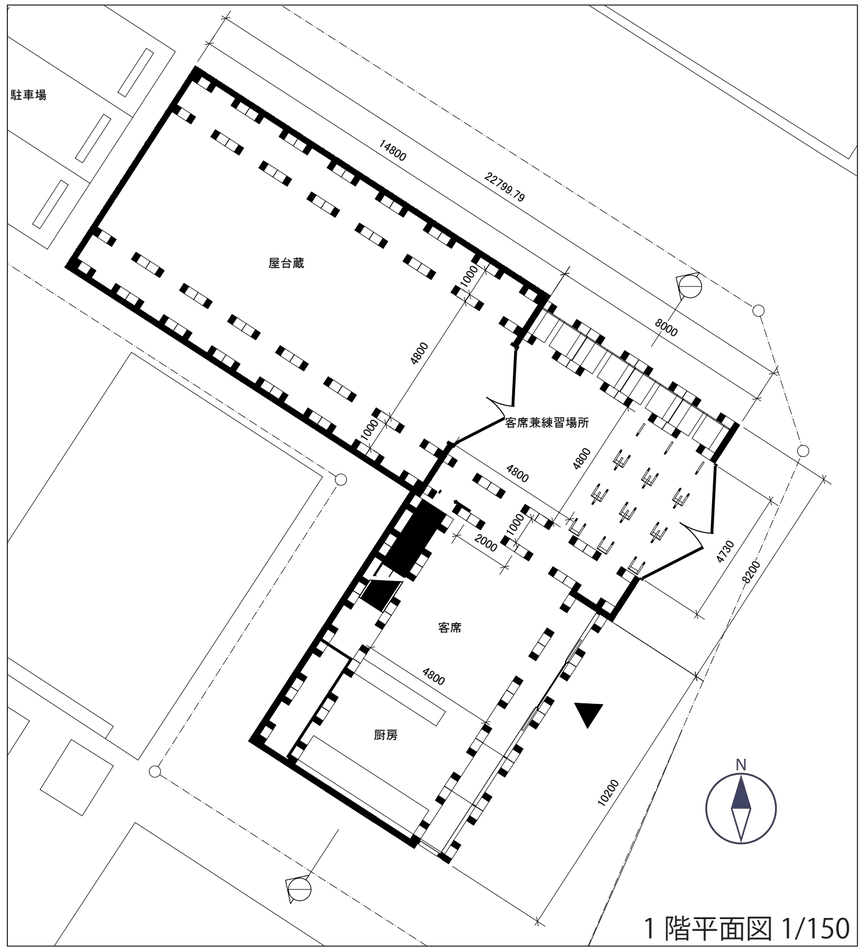
上町に広がるまっこ

〈秩父そば〉

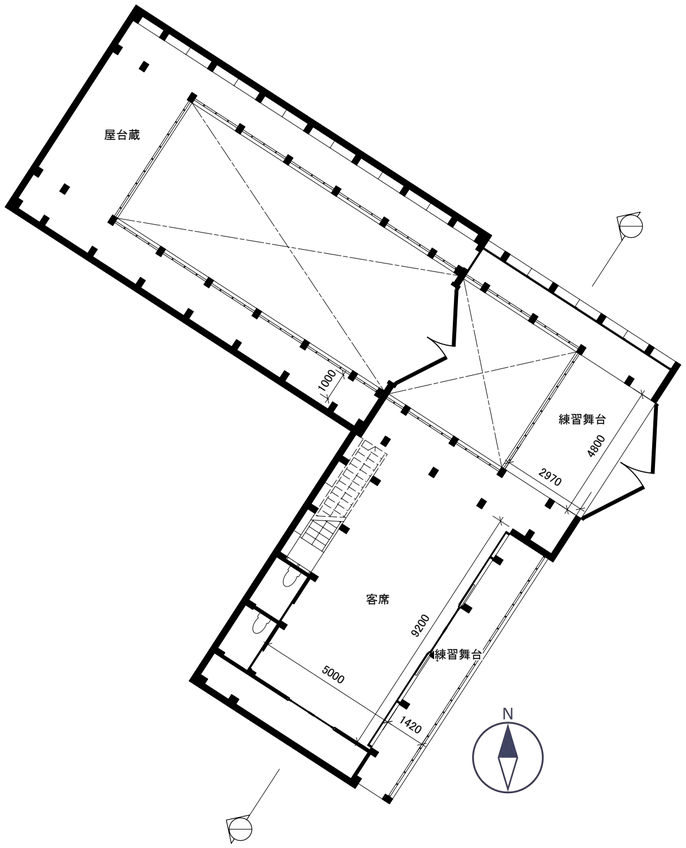
秩父地方は、その土質や気候がそばの栽培に適しており、
古くからそば作りが盛んにおこなわれてきた。
荒川上流部の住んだ源流を利用して栽培された秩父そばは、
コシが強く、風味豊かな美味しいそばとして知られ、
秩父市内のそば屋は１００軒を超える。

敷地周辺の幼稚園・中学校の職員、工務店に務める人、
地域住民らの憩いの場としてそば屋を計画する。

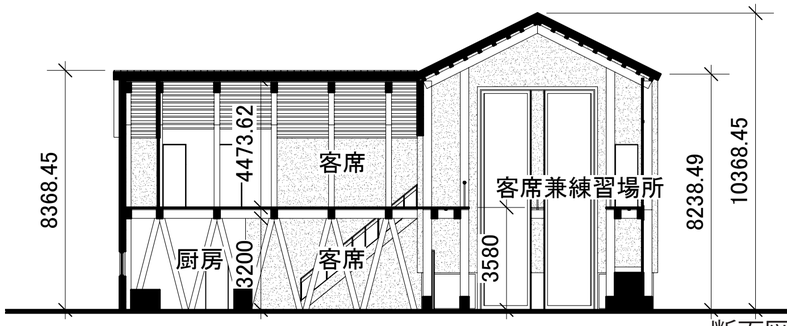
写真：秩父そばの会 HP



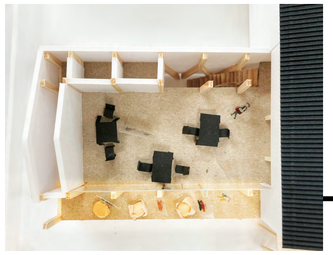
1 階平面図 1/150



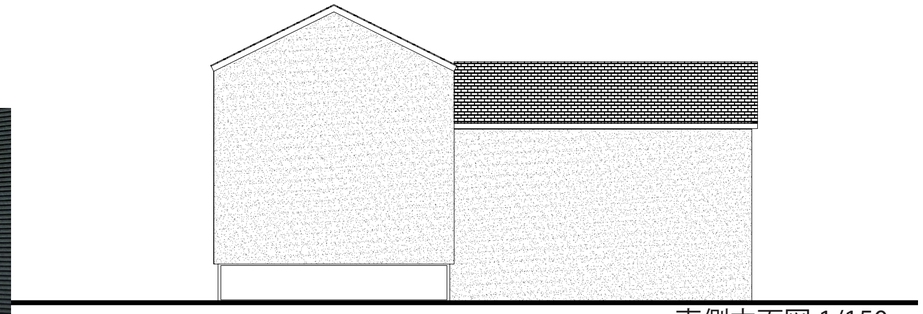
2 階平面図 1/150



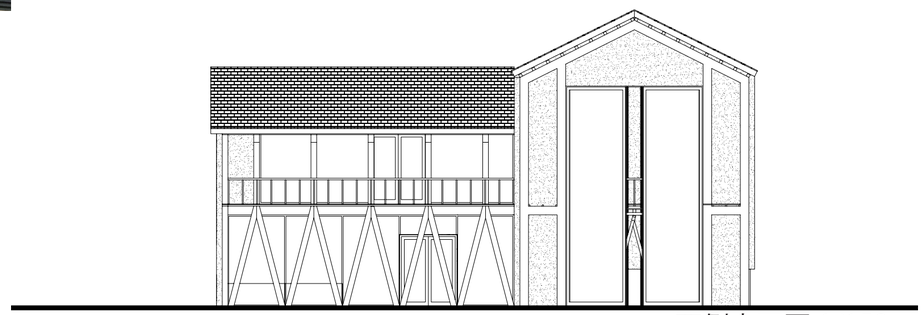
断面図 1/150



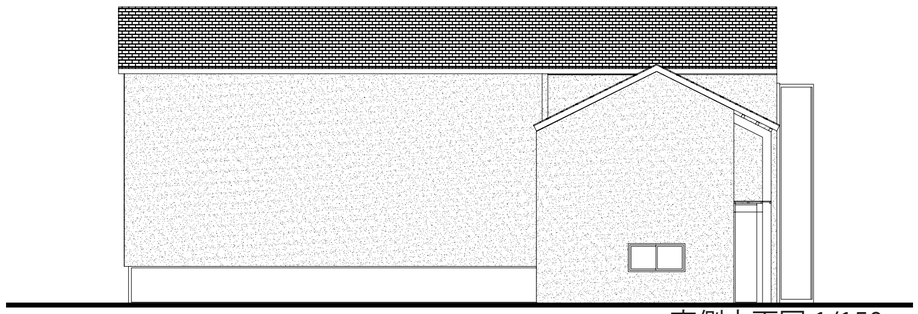
2 階客席にあるテラス席は
そのままま っこの一部に



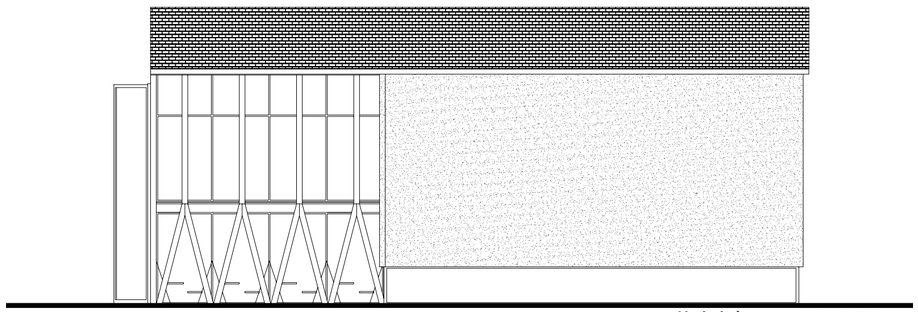
東側立面図 1/150



西側立面図 1/150



南側立面図 1/150



北側立面図 1/150

宮地町

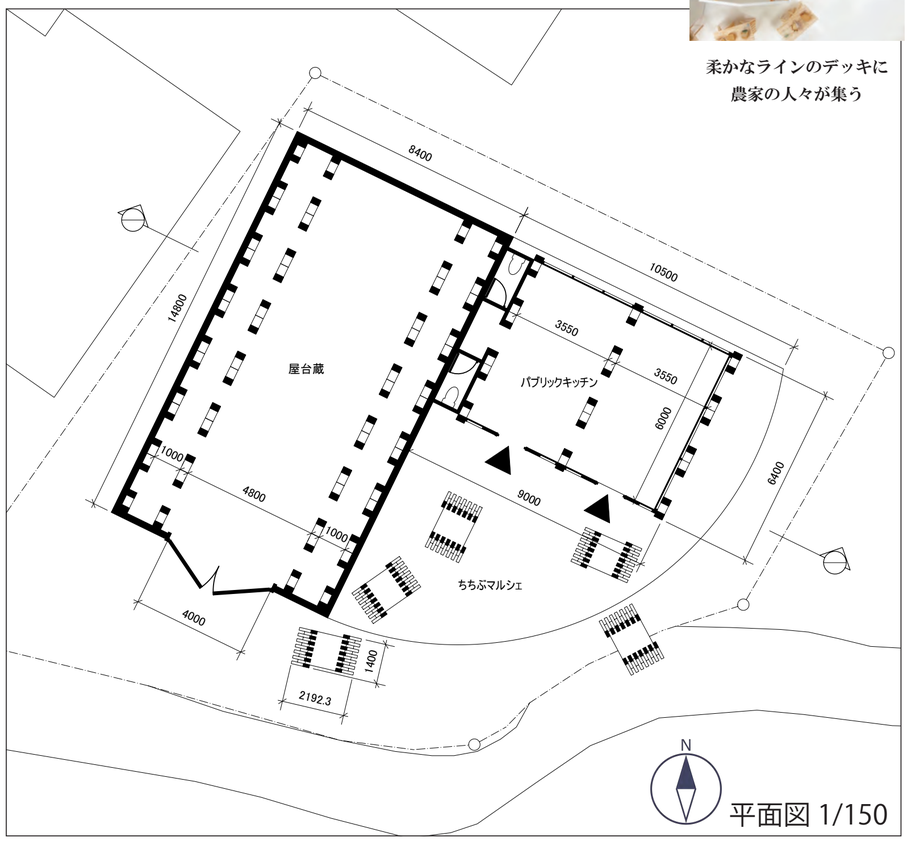
― 畑にたたずむマルシェ ―

練習場所
屋台蔵
マルシェ

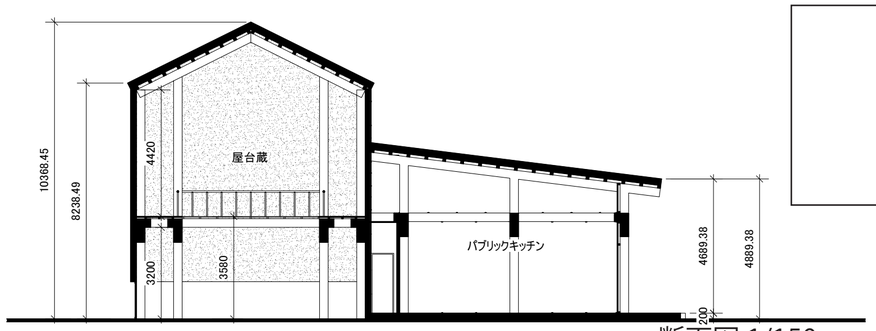
柔かなラインのデッキに
農家の人々が集う

普段はマルシェの
１ブース

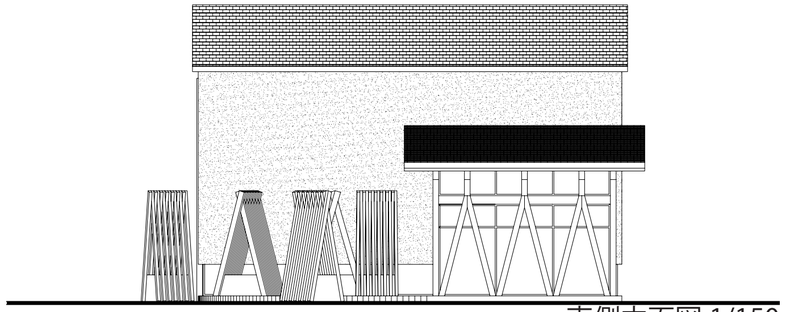
練習になると
付舞台のさすまた



平面図 1/150

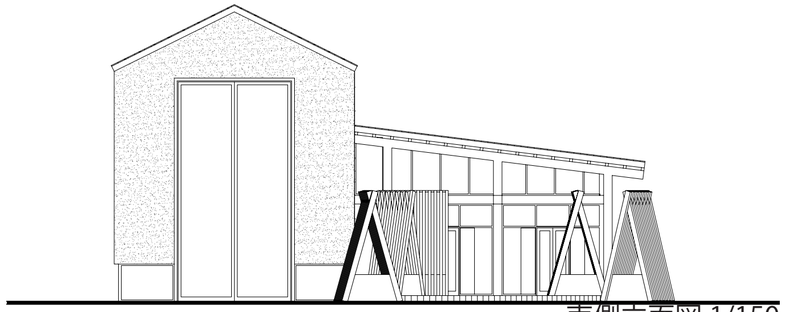


断面図 1/150

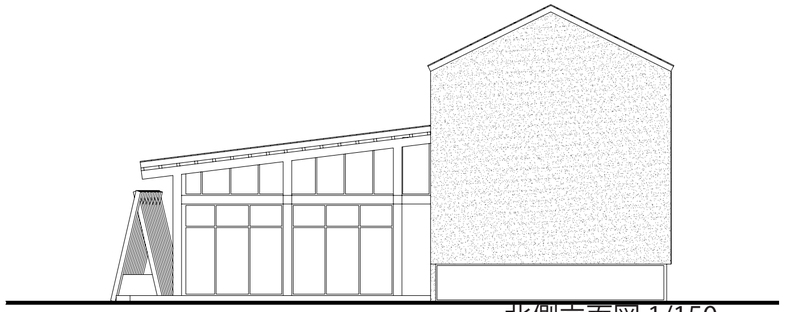


東側立面図 1/150

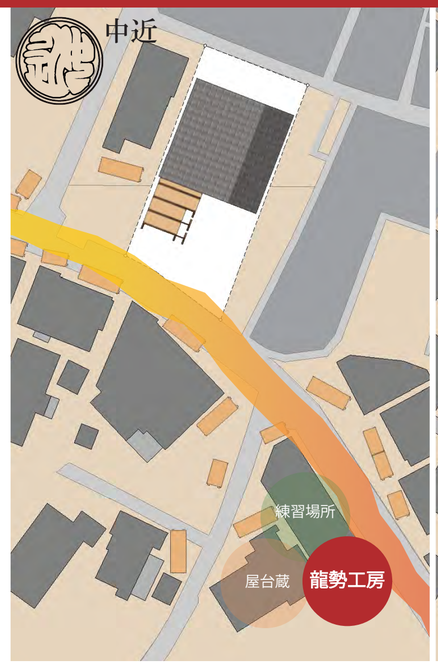
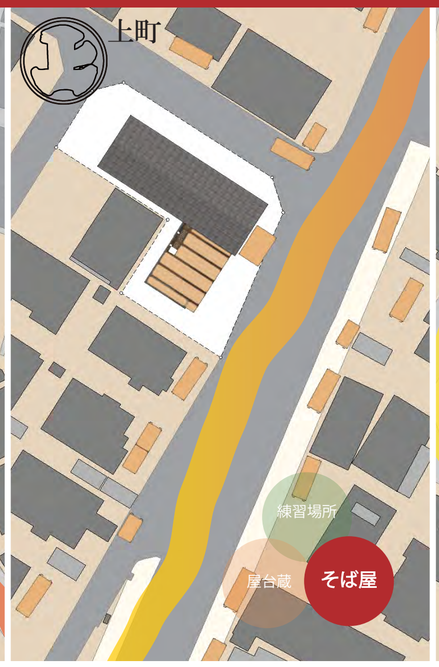
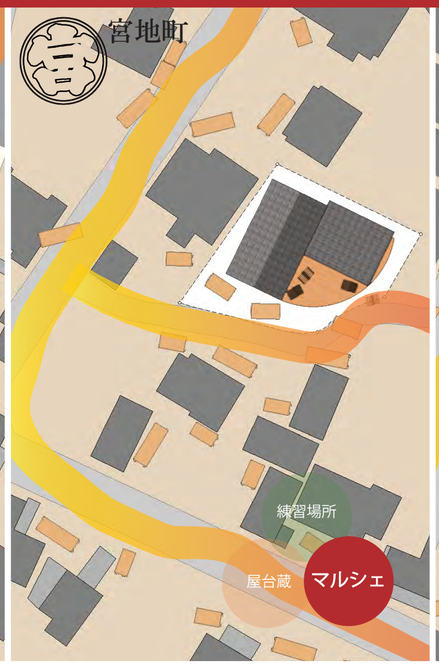
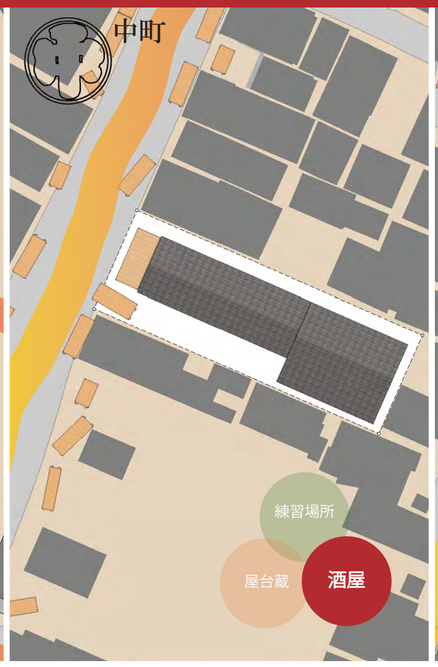
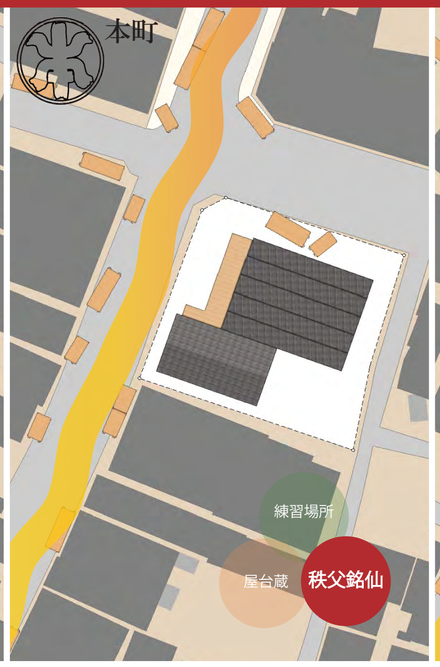
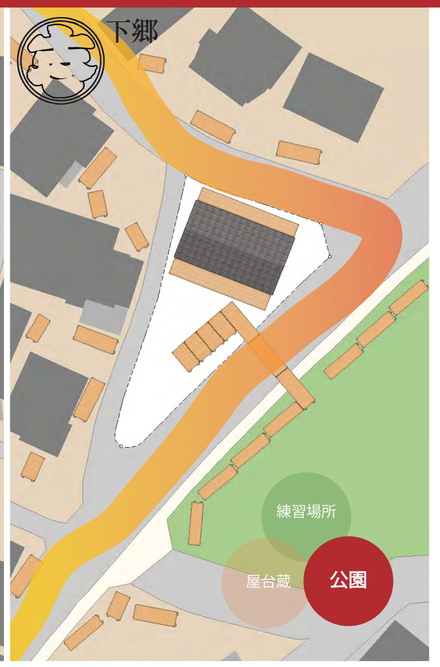
西側立面図 1/150



南側立面図 1/150



北側立面図 1/150

ぐれないちちぶをつくる各町会のまっこ

1/500